

サステナビリティレポート2015

Year ended March 31, 2015



ウシオグループは、光の持つ無限の可能性に 社会の課題解決と人々のQOL向上に貢献す

私たちウシオグループは、光技術のリーディングカンパニーです。

日々、世界57の拠点を世界のお客さまへ、光に関わる製品とサービスをお届けしています。

North America

USHIO AMERICA, INC.
CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.
CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.
CHRISTIE MEDICAL HOLDINGS, INC.
NECSEL INTELLECTUAL PROPERTY, INC.

Europe

USHIO EUROPE B.V.
USHIO FRANCE S.A.R.L.
USHIO DEUTSCHLAND GmbH
USHIO U.K., LTD.
BLV Licht- und Vakuumtechnik GmbH
NATRIUM Sp. zo.o.

USHIO GROUP 企業理念

①

会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を
一致させること。

②

国際市場において
十分競争力のある製品・サービスを 提供すること。

③

優れた製品、新しい研究開発を通じ
進んで 社会に貢献すること。

④

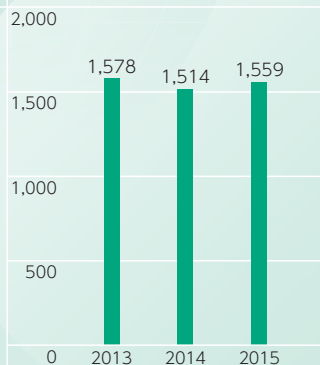
オープンで自由な企業活動を通じ 競争力を高め
安定利潤を確保すると共に 企業の社会的責任を果たすこと。

会社概要

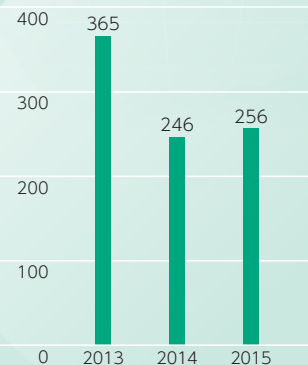
設立	1964年3月
資本金	19,556,326,316円
代表取締役社長	浜島 健爾
本社	東京都千代田区大手町2-6-1
従業員数 (2015年3月31日現在)	
ウシオ電機本体	1,755名
国内グループ計	705名
海外グループ計	3,080名
合計	5,540名

従業員の推移

North America



Europe



編集方針

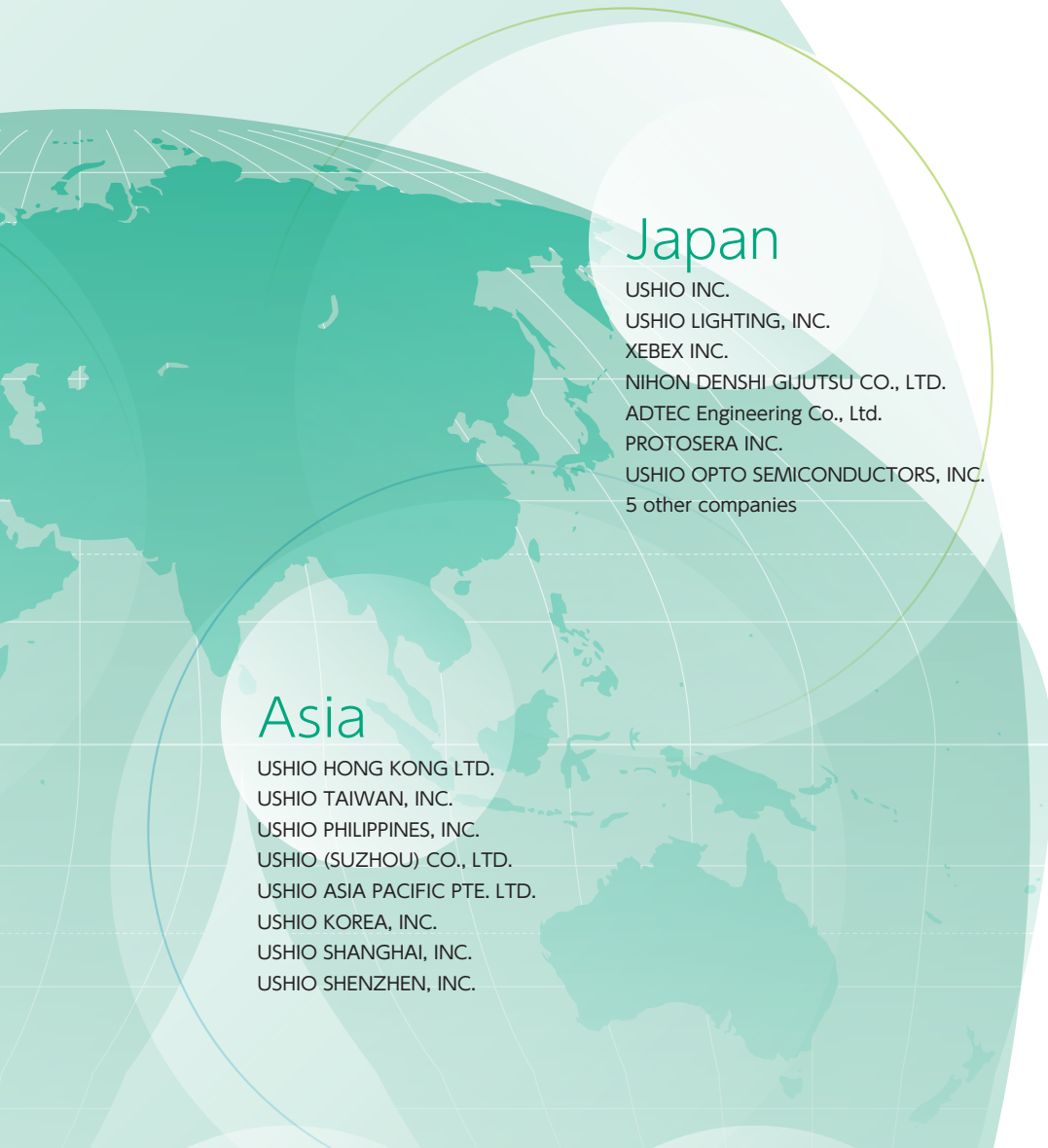
「サステナビリティレポート2015」の作成にあたっては、経営とCSRの課題との関連性をより高めた報告とするように心がけました。また、詳細報告であるCSRサイトやオンラインアニュアルレポートなどへの入り口となるような連携を目指し、多くのステークホルダーの方に読みやすいよう編集を行っています。

① CSRサイト

ウシオグループの詳しいCSR報告については、「CSR／社会・環境」をご覧ください。

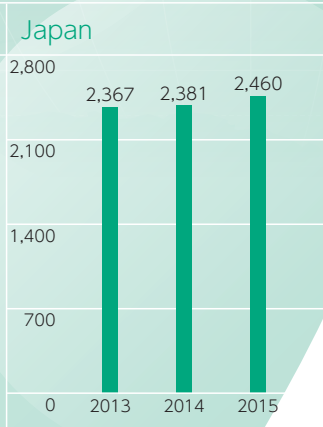
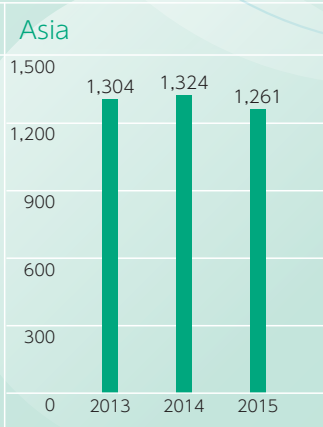
Web <http://www.ushio.co.jp/jp/csr/>

よって、
る新たな価値を創造します。



目次

- 02 トップメッセージ
- 06 特集
新しい価値を創出する
LED・LD事業
- 10 TOPICS
バイオメディカル事業
CSR調達
- 12 ウシオのCSR
- 14 **ガバナンス**
企業統治と透明性
- 16 **人**
人権の尊重
- 18 **品質**
お客さま・
お取引先さまとのかかわり
- 20 **環境**
環境への取り組み
- 22 **社会**
社会とのかかわり
- 24 研究開発／知的財産
- 25 第三者意見
第三者意見を受けて



② オンラインアニュアルレポート

ウシオグループの詳しい事業報告については、「オンラインアニュアルレポート2015」をご覧ください。

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/ir/ar2015/>

報告対象範囲

期間：基本的に2014年4月1日～2015年3月31日までの活動内容についてご報告していますが、それ以前より活動している内容や、一部2016年3月期の取り組みも含めています。

組織：ウシオ電機全事業所および国内外のグループ会社

トップメッセージ

ウシオは、地球社会の持続可能な成長とウシオの成長戦略の融合を試みる中期経営計画を進めます。

ここに、私の社長就任以来2度目となるサステナビリティレポートをお届けします。2015年5月、当社は長期的な視野で事業の先行きを見据え、業績の飛躍を目指す新中期経営計画を発表しました。持続可能な社会の構築に向けて事業を発展させるウシオの成長戦略の一步をご報告することで、ステークホルダーの皆さまに私たちの目指す方向性をご理解いただく一助となれば幸いです。



中期経営計画とCSR

2015年5月に発表した中期経営計画では、「事業収益の拡大」「資本効率の向上」および「株主還元強化」の3つを重点施策としています。お客さまや社会の困りごとにウシオの“光技術”でお応えし続けることが社会的課題の解決や持続可能な社会の実現につながると思っています。目標達成のためには、研究開発や商品開発部門のみならず営業から管理部門に至るウシオグループの隅々に新しい価値創出を促すイノベーションが立ち上がってこ

なければなりません。そこで私たちは、中期経営計画策定と同時に、新しい価値創出の母体となる経営基盤の強化に取り組んできました。

具体的には、以下のようなグループ内外の課題と幅広い社会の動向を視野に入れて、経営基盤の強化を進めています。

- 経営の透明性
- ステークホルダーとのコミュニケーション
- 人権・ダイバーシティ

業績の推移

	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
売上高	1,434億円	1,578億円	1,593億円
営業利益	75億円	121億円	103億円
当期純利益	71億円	107億円	112億円
自己資本利益率(ROE) (%)	4.3%	6.0%	5.6%

*数値はすべての表示数未満の位を切り捨てて表示しています。

中期経営計画 数値目標

	2015年3月期(実績)	2016年3月期(計画)	2018年3月期(計画)	2020年3月期 達成目標
売上高	1,593億円	1,800億円	2,200億円	
営業利益	103億円	130億円	180億円	
営業利益率	6.5%	7.2%	8.2%	ROE 10%
自己資本利益率(ROE) (%)	5.6%	5.7%	8.0%以上	

中期経営計画と経営基盤強化



- 人材育成
- サプライチェーン・CSR調達
- 顧客満足
- ISOマネジメントシステムの改善

これらは優れて今日のCSR要素であり、いずれも当社が成長を目指すうえで欠くことのできない経営基盤を構成するものばかりです。ここではまず、中期経営計画の概要を述べ、次にCSR行動計画(詳細P13)に落とし込まれ、すでに実行している施策のいくつかに焦点を当ててご紹介します。

当期の業績と中期経営計画の概要

当期の業績は、売上高が前期比1.0%増収の1,593億円、営業利益が14.5%減益の103億円となりました。セグメント別には、装置事業が減収減益、光源事業が増収増益でした。

この数年、特にリーマンショック後の当社の業績は、市場の期待する水準に達していない状況が続いていると認識しています。開発投資などの投資効率の向上および固体光源やメディカル製品などによる今後の成長ドライバーの早期創出により、収益性を向上させていくとともに、その実効性を担保するための経営基盤強化にも取り組んでいく必要があると考えています。

そのような背景のもとで策定した中期経営計画では、3年後の2018年3月期にはROE8.0%以上、売上高2,200億円、営業利益180億円(営業利益率8.2%)とすることを目標に掲げ、さらに2020年3月期にはROE10%を目指しています。

オンラインアニュアルレポート2015 戦略

 <http://www.ushio.co.jp/jp/ir/ar2015/strategy/index.html>

中期経営計画(PDF)

 http://www.ushio.co.jp/jp/ir/library/management_plan/index.html

ステークホルダーとのコミュニケーション

中期経営計画の推進を支える経営基盤を改善するにあたって、ステークホルダーとのコミュニケーションをもっとも重視しています。当社は、多様な価値観を経営に組み込むべく、お客さま、投資家、お取引先さま、グループ社員、NPOなどとのコミュニケーションを強力に推進しています。多様なステークホルダーから当社に寄せられる期待をくみ取り、社内外の課題への認識を深めることで、全く新しい技術や考え方を取り入れ、新たな価値を生み出すイノベーションが力強く生まれるものと期待しています。

社員やグループ間におけるコミュニケーションの活性化についても、事業部間の人材活用はもとより、グループ間での異動を積極的に実施して、人材交流を促進しています。役員と社員とのランチミーティング、社員間のワールドカフェをはじめ、さまざまな交流の場を数多く設けています。

社外取締役3名体制に

企業活動において、投資家をはじめとするステークホルダーとの対話や非財務的な価値が極めて重要であるという世界的な認識の高まりから、2015年6月、日本でもコーポレートガバナンス・コードが導入されました。

この方針に沿って、当期ウシオでは新たに社外取締役1名と社外監査役1名を追加し、社外取締役3名、社外監査役3名としました。これにより取締役会では11名のうち、3名が社外取締役という新しい体制となりました。当社の取締役会・監査役会に多彩な背景と経験を有する方々を迎え、これまでとは異なる視点からの有用な知見を期待すると同時に、経営・ガバナンスに対する監視・監督を新たな観点から受け入れることで、経営の透明性をさらに高めていくことができると考えています。

新任社外役員メッセージ(オンラインアニュアルレポート2015)

 <http://www.ushio.co.jp/jp/ir/ar2015/governance/interview.html>

人権・人材育成・ダイバーシティ

当社はCSR行動計画の5つの柱のひとつを「人」としており、事業活動に関わる人権への配慮は欠かすことのできないものであると考えてきました。

ウシオは、創業以来「連峰経営」というグループ経営哲学のもとに歩んできました。事業戦略や企業倫理およびCSRの基本的考え方などの情報を共有できる体制を整え、地域の文化・歴史などの背景や実情に即した日々のオペレーションを実施しています。グループ各社の独自性、独立性、自主性に基づく施策を尊重し、現地採用社員の管理職や経営層への登用も積極的に行っています。

人材育成はもっとも重要な課題のひとつとして注力してきましたが、当中期経営計画の実行に際してはこれをさらに前進させる施策を打っています。

若手社員を対象に経営者的なグローバル感覚を持ってもらうための「ヤングエグゼクティブ制度」を導入しました。長期的な人材育成には職制に応じた役割の自覚を促す教育、「階層別研修制度」についても一層の充実を図っています。英語能力の向上を目指し、日常的に会話ができる場を提供するなど、社員のコミュニケーションスキル向上のための施策を講じています。

また、性別・人種にとらわれない平等な人材育成と活用を謳ったダイバーシティを推進しており、今後は障がい者雇用の増加を計画しています。

サプライチェーンマネジメント

グローバルにビジネスを展開するにあたっては、原材料調達からお客様の製品廃棄まで一連のプロセスの中で環境保全への配慮が必要です。加えてサプライヤーに対するCSR啓発および人権に対するの尊重が求められています。ウシオではすでに、グリーン調達の活動とともに、CSR調達方針を定めCSR課題に対する取り組みをサプライチェーンを通じて行っています。

事業を通じた貢献と雇用の創出

光技術のリーディングカンパニーであるウシオは、従来のエレクトロニクス分野、映像画像分野に加え、新たにバイオメディカル、ライフサイエンス分野にも貢献できる領域があります。たとえば、事業の第3の柱と位置付けているバイオメディカル分野では、血液分析装置や皮膚治療器などが順次アジア各国の認可を受けつつあり、QOL(生活の質)の向上に貢献しています。

また、低炭素社会に貢献することなどが期待されている産業用固体光源(LED・LDなど)は、シネマ向けや次世代の車載機器向けに大きな飛躍が望めます。中期経営計画では、こうした新しい価値の創造によって社会に貢献する製品とサービスを育て、ウシオの成長ドライバーとすべく取り組んでいます。

現在、ウシオグループの売上は、約8割が海外であり、従業員の5割以上が海外グループ会社に所属しています。今後も、グローバル展開によって世界にまたがる拠点網において多くの雇用を生み出し、地域の発展にも貢献していくと考えています。

当社は2010年10月に国連グローバル・コンパクトに署名し10原則の支持を表明しました。本年採択される国連の「ポスト2015開発アジェンダ」等の社会課題の解決にも事業を通じて貢献していきます。

今後とも、当社の事業活動に対し一層のご理解ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

また、本冊子に対する皆さまのご意見をお寄せいただければ幸いに存じます。

2015年10月

代表取締役社長・CEO

浜島 健爾

新しい価値を創出するLED・LD

省エネ・省資源に貢献するLEDは、照明器具の光源として一般家庭用に普及し、近年ではすっかり身近な存在になりました。そして、極めて高い光のスペックが求められる産業分野においても、従来のランプに匹敵する性能を持った光源として、LEDやLD(半導体レーザー)の導入が徐々に始まっています。

照明だけじゃないLEDの使い方

ウシオライティングでは、ホテルやオフィス、病院などに対し、LEDならではの付加価値のある多様な照明器具を提供しています。しかし、LEDが本領を発揮するのは照明だけではありません。ウシオは光のリーディングカンパニーとして長年培ってきた光技術を駆使し、紫外線から赤外線まで、幅広いLED・LDを、半導体製造プロセスや医療用などさまざまな用途に向けて、展開しています。

戦略的M&Aの推進

ウシオでは、開発のスピードアップと製品ラインナップ拡充を目的に、積極的にM&Aを推進しています。2014年10月、ウシオは日本オクラロから産業用および民生用LED・LD事業を譲り受け、ウシオオプトセミコンダクターとして新たにスタートさせました。2008年、2010年に

はそれぞれエピテックス(現ウシオエピテックス)とネクセルを傘下に収めており、今回ウシオオプトセミコンダクターが加わったことで、ウシオグループはお客様の多様なニーズに応えられる豊富なラインナップのLED・LDを提供する体制が整いました。

ウシオが拓くLED・LDの「新時代」

LEDやLDは、幅広い波長を出すランプとは異なり、使用する材料によって必要な波長を限定して発光させられるという特徴があり、用途によってはランプ以上に効率的に光を活用することができます。

LED・LDの歴史はまだ浅く、将来的には地球社会が抱える問題のソリューションとなるような大きな可能性を秘めていると期待されています。ウシオではさらに高品質なLED・LDを求めて、研究開発を推進しています。

ウシオのLED・LD 主な対象市場

Visual Imaging



プロジェクタ、プリンタ、画像処理など

Process



リソグラフィ、UVキュアリング、3Dプリンタなど

Measurement



監視カメラ、測量機器、コントローラーなど

LED事業

固体光源事業を牽引するグループ企業

産業用レーザーの ウシオオプトセミコンダクター

ウシオオプトセミコンダクターは、独自のレーザー技術とモノづくりのノウハウを活かし、産業用レーザーダイオードを中心に、高機能複合プリンタ用マルチビームレーザー、医療・計測用赤色レーザー、露光装置用青紫色レーザー、ディスプレイ用の高出力赤色レーザー、そしてエンコーダ用高出力赤外LEDなど多岐にわたる光デバイスを提供しています。



UVレーザー

赤色レーザー

近赤外レーザー

マルチビームLED

LED照明のトータルソリューション ウシオライティング

ウシオライティングでは、病院やホテルなどには省エネとコスト削減を実現しつつ人に優しい照明を、ステージ照明には多彩な演出が可能な照明機器と最適なライティングコンソールを、植物工場や集魚灯には使用環境と目的に合わせたユニークな装置を提供するなど、お客さまのニーズにトータルソリューションで応えています。



LED電球

LEDフォロー
スポットライト

屋外用LED照明

植物育成用無線制御LEDユニット

高出力可視光レーザーのネクセル

ネクセルが提供するレーザー光は明るく、広い色彩と鮮やかな色合い、低コスト、長寿命という特長があり、デジタルシネマやプラネタリウムなどに採用されています。なかでも緑色レーザーは著名な学会の賞を受賞するなど、新たな市場であるプレミアムシアター向けの光源として、新市場の立ち上がりを力強く牽引しています。



白色レーザー

青色レーザー

緑色レーザー

赤色レーザー

紫外線から赤外線まで幅広い 高出力LEDラインナップ ウシオエピテックス

ウシオエピテックスは、一般監視用、交通監視用、駐車場監視用などの自動車関連ITS（高度道路交通システム）分野のほか、生体認証、医療・バイオ、産業用光センサーなどに搭載する高出力なLEDモジュールを供給しています。



表面実装タイプ
LED

スーパービーム
タイプ

ステムタイプ

高出カイルミネータ
タイプ

Automotive/ITS



ヘッドライト、ヘッドアップディスプレイ、ETCなど

Illumination



照明、スポットライト、空間演出など

Science/Medical/Bio



治療、検査機器、植物工場、水・空気殺菌など

ウシオが挑戦する、次世代の



持続可能な社会の実現のための省エネ、廃棄物削減という観点から、一般用LED照明は、従来の白熱灯の約8分の1の消費電力と10倍にもおよぶ長寿命という優れた性能が評価され、急速に浸透しつつあります。しかし一方、ウシオグループが提供する産業用特殊光源の置き換えとなる固体光源(LED・LD)については、まだいくつか越えなければならない課題があります。特に高出力・高輝度が必要とされる領域では、量産に向けた開発は端緒についたばかりです。ここでは、ウシオの固体光源事業の最新の成果とウシオが目指す姿について固体光源事業部長の伴野裕明がご説明します。

伴野 裕明
取締役 固体光源事業部長

ウシオが目指す領域・用途

私たちは今、6つの領域で固体光源事業に取り組んでおり、いずれも産業用の分野です。映像・画像のデジタルイメージング、UVの光反応作用や可視から赤外光の加熱を利用したインダストリープロセス、光の波長と材料の特性を活かしたサイエンス・メディカル・バイオ、光の波の性質を利用したセンシング、自動車・ITS(高度道路交通システム)、そしてスペシャルイルミネーションの6つ

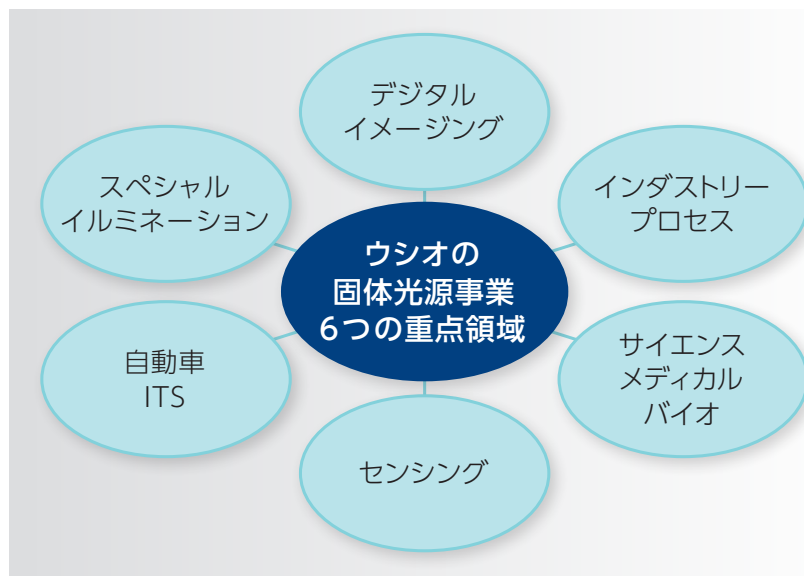
の領域です。それぞれの領域で紫外から可視そして赤外と幅広い波長の光がその応用目的に合わせて準備されなければなりません。

「強い光」の製品開発を加速

固体光源の産業用途には、計測器のように「弱い光」でよいものと、半導体製造プロセスなどで使われる「強い光」が必要とされるものがあります。前者の場合、従来の

放電ランプやハロゲンランプよりむしろ固体光源の方がつくりやすく、すでにLEDやLDへの置き換えが進み主流となっています。

一方、強い光が求められる分野については技術面の課題も多く、たとえば半導体製造プロセスに使われるような高出力・高輝度放電ランプに匹敵する固体光源の製品開発は、まだ始まったばかりといえます。ウシオは目下、お客



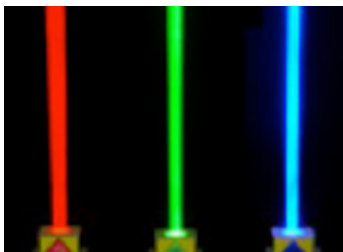
体光源

さまとともに持続可能な社会の実現に資する新たな製品を開発すべく、急ピッチで技術革新を進めており、この分野でもそう遠くない将来、徐々に固体光源に置き換わっていくと考えています。

映画館のデジタル化とレーザーダイオード(LD)

この数年、シネマ分野ではフィルム映写機からデジタルシネマプロジェクタへという大きな流れがありました。これは、映画館に配給されていた膨大な量のフィルムという石油資源の節約に大きく貢献しています。現在、先進国の映写機はほぼデジタル化が完了し、当グループのクリスティ製品がこのうちの40%を占めています。引き続き中国を中心にアジア地域においてデジタルシネマプロジェクタの需要が維持されていることから、一層の省資源を促進していくものと思われます。また、デジタル化によって、コントロールルームでの映像の一元管理が可能となったため、将来は上映される作品をオンラインで配信することが考えられており、物流にかかるコスト削減にも期待がかけられています。

この流れに加え、ウシオではデジタルシネマプロジェクタ搭載用LDの販売を開始しました。今年に入ってまずクセノンランプでは実現できないプレミアムシアターのプロジェクタ向けにLD製品の出荷が本格化しています。LDは、省エネ・省資源に資するばかりでなく、従来の放電ランプに比べて格段に高出力・高輝度であり、そのうえ波長が単色であることを活かし、従来にない高色域での色が再現でき、非常に明るく美しい映像を映し出せます。映



像作品制作の現場や観客にとっても新たなシネマ時代の到来を呼ぶものといえます。

安全で快適なクルマ社会

自動車ITS関連市場が注目を集めており、ウシオでもヘッドアップディスプレイ向けレーザーの開発を進めています。

ヘッドアップディスプレイとは、究極的には各種メーターやナビなどの運転席の機器がすべてなくなり、ETCやクラウドと常に通信を行いながら、あらゆる情報をフロントガラス部に映し出すもので、ITSによって道路交通網全体の俯瞰と異常の察知・対応などが図られ、個々の自動車ばかりでなく、安全で快適なクルマ社会の構築に寄与することが期待されています。ウシオが開発している高性能レーザーを使用したヘッドアップディスプレイは、数年後には一般市販車に搭載される見込みです。さらにITSを支える周辺技術にはまだまだ固体光源に期待されている分野が数多くあり、積極的に製品展開を図っています。

今後数年の中期的ビジョン

ウシオが固体光源推進室をつくったのは2008年でした。7年経った2016年3月期は、売上高の見込みがほぼ100億円となり、2018年3月期には約160億円を計画しています。製品ラインナップは、今期から本格的な出荷が始まったシネマ向けLD以外にも、数多くの開発案件を進めつつ製品としてリリースする時期をみています。

現在、社会のLED・LDに対する期待は高く、お客さまからは持続可能な社会の実現に貢献できる製品開発を支援する製品が求められています。ウシオは、光のリーディングカンパニーとして、これまで培ってきたお客さまとの信頼関係を強みに社会のニーズを掘り起こすというウシオらしいアプローチで、新しい価値の創造と固体光源事業の成長をともに図ってまいります。

バイオメディカル事業

2014年、ウシオは事業の第3の柱としてバイオメディカル事業部を発足させました。固体光源事業同様、積極的なM&Aや研究機関との協同開発によって、社会の課題を解決する新たな価値を創出し、ウシオの次世代を担う成長ドライバーとなる製品を生み出すべく事業を推進しています。

皮膚科用 紫外線治療器「セラビーム®UV308」

「セラビームUV308」とは治療を表す「セラピー」と光線を表す「ビーム」を掛け合わせた造語で、ウシオの光で困っている患者さまに治療を届けたいという思いが込められています。累積で350台以上が生産され、世界各地の皮膚科での治療に役立っています。具体的には白斑・乾癬・掌蹠膿疱症・アトピー性皮膚炎等に悩んでいらっしゃる患者さまのQOLを改善するなど、多くの実績を上げています。

最近では大学を中心にアトピー性皮膚炎とその痒みに関する研究も進んでおり、この分野での効果の検証も期待されています。一人でも多くの困っている患者さんにウシオの光を届けたいと思っています。



定量分析が可能な動物病院向け血液分析装置「ポイントリーダー®V」

イムノクロマト法による定量分析が可能な動物病院向け血液分析装置「ポイントリーダーV」と専用試薬「ポイントストリップ®」を販売しています。定量精度が低いイムノクロマト法は、これまで定性分析に限られていました。ウシオの「ポイントリーダーV」とその専用試薬である「ポイントストリップ」はイムノクロマト法での分析能力を飛躍的に向上させることに成功しました。

現在、「ポイントストリップ Canine-CRP」という犬の炎症を測る試薬を展開しているほか、今後、猫用を含むさまざまな測定項目を追加していく予定です。今や家族の一員となったコンパニオンアニマル。自ら症状を訴えることができない彼らの代わりに、病院の現場で素早く測定できる本装置が、診断の一助となればと願っています。

*現在は中国での販売が開始されており、その他の国にも順次販売展開していく予定です。



ポイントリーダーVおよびポイントストリップ外観

医療機関向け化粧品セララ

光と薬を用いた最新の治療・診断技術であるPDT (Photodynamic Therapy)。ウシオ電機は以前からこの技術に着目し、研究・開発を進めていく過程で、皮膚の悩みにお答えする方法を日夜模索してきました。そこで今回、保湿成分ALA (アミノレブリン酸リン酸)に着目し、ALAを用いた化粧品を取り扱うことにしました。この化粧品は、乾燥肌にうるおいを与え、肌をすこやかに保ち、ネガティブな皮膚に悩む人のためのメディカルコスメです。



CSR 調達

企業の社会的責任は 企業の事業存続の条件であるとともに、的確な対応は企業としての優位性となり、競争力の源泉ともなります。しかし、その実現は一企業で取り組むことは困難であり、サプライチェーン全体での取り組みが不可欠となっています。ウシオでは、継続的に取り組みの範囲、調査項目などを充実させ、お取引先さまとともにCSR対応力の向上を図っています。

2015年3月期
調査対象会社数

613社

有効回答率

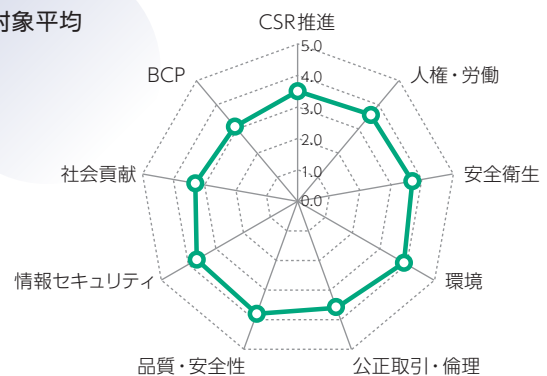
90%

CSR 調達アンケート調査

2015年3月期、ウシオ電機は主要生産拠点のお取引先さまへの調査を大幅に拡充し、ほぼ全数にあたる613社へのアンケートを実施しました。そのうち、90%に有効回答を得ることができ、全対象会社の回答の各項目の平均値は、右図のようになっています。

この結果を踏まえ、各お取引先さまへは個別にフィードバックを行い、対話を通じて課題の抽出ならびに改善策を協議しています。

全対象平均



CSR 調達方針

ウシオ電機は、オープンで自由な企業活動を通じて、国際市場において優れた製品、サービスを提供することにより、企業の社会的責任を果たします。調達活動においては、共存共栄の精神のもと、法令、社会的規範および環境保全に配慮すべく、下記5項目をウシオCSR調達方針として定めています。

1. 人権ならびに労働安全衛生
 2. 環境への配慮、グリーン調達
 3. 製品安全性の確保
 4. BCP(事業継続)
 5. 公正・公平な取引、法令順守
- [情報セキュリティ]

海外調達

企業のグローバル化が進む中、企業に求められる社会的責任はより大きくなり対象が拡大しています。海外における、労働条件に関する人権問題、資源開発による水資源や環境汚染、あるいは紛争地域における鉱物資源資金の問題など、我々が直接関与していない場合であっても、サプライチェーンを通じ間接的に関与した場合、それらは企業の責任であり、リスクとなります。

当社は、海外のお取引先さまからも調達を行っており、当期は現在扱い高の多いところ、また汎用品への使用が多いものの納入元に対して国内のお取引先さまに準じた調査をスタートさせています。各地域や国によって異なる事情があるため、協議によってロードマップを作成するなどの対策を取り、順次調査を進めています。

CSR調達方針

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/csr/csr-procure.html>

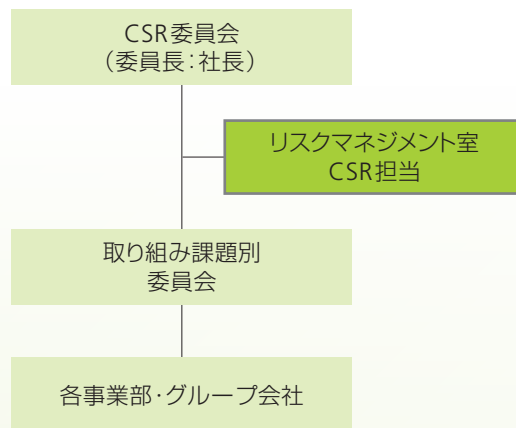
ウシオのCSR

ウシオの目指すCSR

「コンプライアンス」や「社会貢献」「環境保全活動」などは、企業市民として当然取り組むべき課題であり、すべての活動の土台であるとウシオグループでは考えています。そのうえで、さまざまなステークホルダーの皆さまとコミュニケーションを通じて良好な関係を構築し、新たな価値の創造と提供を行うことにより、進んで社会に貢献する企業でありたいと考え、取り組みを進めています。

CSR推進体制

グループCSR推進体制図



ウシオ電機では、社長を委員長としたCSR委員会を設置し、CSRへの取り組みに関わる全社的な方針を決定しています。CSR委員会で決められた方針を具現化するために、必要に応じてCSR委員会の下部組織として取り組み課題別の委員会を設置し、具体的な取り組みについて議論しています。2014年5月に開催された第24回CSR委員会においては、現状の課題と今後の取り組みが確認されました。また、2015年4月開催のグループCSR会議においては、世界各地の拠点から出席したグループ各社のトップへCSRに関するアンケートを実施したほか、サプライチェーンCSR管理およびBCPなどについての情報共有と検討を行いました。

国連グローバル・コンパクト10原則の支持



Network Japan
WE SUPPORT

ウシオ電機は、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト10原則」への支持を表明しています。また、国連グローバル・コンパクトのローカルネットワークである、「国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン」にも加盟し、多くの加盟企業やNGOとともに各CSR要素の推進のため、必要な具体的施策の情報共有、および各企業での充実を図る分科会活動に積極的な参加を継続しています。

CSR中期計画

2009年ウシオはCSR部を設置し、2016年3月期までにウシオの経営戦略とCSR課題を融合させることを目指したCSR中期計画を策定しました。このCSR中期計画は3つのフェーズからなり、第1フェーズ(2010～2012)では「CSRの取り組みの基盤づくり」、第2フェーズ(2013～2014)では「CSRの取り組み課題の深掘り」に注力し、当初目指した目標を達成することができました。2015年3月期からは第3フェーズ(2015～2016)へと取り組みを進めています。

第3フェーズの取り組み

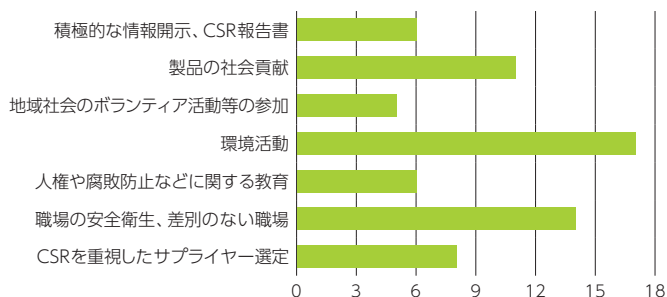
第3フェーズでは、各事業部の年次事業計画に反映させる従来の段階から、CSR中期計画の最終段階である「経営戦略とCSR課題の融合の完了」へと前進すべく全社的取り組みを実施します。

2015年3月期は、CSR委員会をはじめ各種委員会やグループCSR会議での検討、および各事業部におけるCSR課題との整合性など細部にまでわたる計画案を取りまとめ、2015年5月発表の中期経営計画においてCSR課題を一体化させる試みが完了しました。

グループとしての活動基盤整備に向けて

第3フェーズでは、CSR中期計画の最終目標に向けた取り組みと並行し、次の段階を見据えグループワイドな調査を実施しています。現在は、世界各地域における事情に配慮すべく調査内容を充実させるとともに、グループとしてのCSR活動の基盤を一層確固たるものにするため、各社とのコミュニケーションを活発に行っています。

グループ各社における重要課題(アンケート調査より)



CSR行動計画

ウシオグループの課題を「ガバナンス」「人」「品質」「環境」「社会」に分類して5つの柱とし、それぞれの項目をさらにブレイクダウンした取り組み課題を設けています。現在このCSR行動計画が、ウシオのCSRのフレームワークを示すと同時に、各事業部やグループ会社が事業計画を作成する考え方の基盤となっています。

CSR行動計画

5つの柱	2016年3月期の行動計画
ガバナンス 一連の企業活動における透明性の確保、情報公開、法令および国際的な規範遵守や汚職・腐敗の防止、リスクマネジメント、などの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報セキュリティの強化 ● 事業継続マネジメント(BCM)の推進 ● 汚職・腐敗行為の防止に向けた取り組み強化 ● CSR行動の株主への情報提供 ● グループCSR活動の強化(情報共有、共通目標、ニーズ把握など) ● 非財務情報の情報開示充実化 ● 税の透明性維持に関する取り組み
人 差別の撤廃、多様性の尊重、事業に関係するあらゆる人の生存権、生活権の尊重、ハラスメントの排除、労働安全衛生、児童労働、強制労働、奴隷労働の防止、人権侵害加担の回避	<ul style="list-style-type: none"> ● 人権方針の作成 ● 差別撤廃、多様性の尊重による社内における人材活用の推進 ● 働きやすい職場環境(ハラスメント排除、適切な労働安全衛生)の維持 ● 長期的な事業活動の維持・向上に寄与する人材育成の推進 ● ワークライフバランスの促進 ● 人権教育の実施 ● ダイバーシティポリシーの制定 ● 労働安全衛生に関する監視の強化
品質 製品だけでなくコンセプトやサービスの提供において、市場のルールや規範遵守も加味したトータルで魅力的な品質の実現	<ul style="list-style-type: none"> ● お客さま視線を最重要視した、真の顧客満足度向上 ● 品質目標とその計画展開 ● サプライチェーンの強化に関わること(グリーン調達やCSR調達、紛争鉱物に対する基本方針を意識した活動の推進、人権デューデリジェンスの実践) ● グローバルな品質保証体制の強化 ● 製品安全アセスメントの対応 ● サプライヤーCSR監視の強化 ● ISOの改善(スピード化、スリム化)
環境 企業活動が影響を与える温室効果ガス等の排出に関する情報開示、気候変動、生態系への影響、資源有限性への配慮、危険廃棄物、有害化学物質などの管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 第四期環境行動計画の内容に基づいた目標設定と取り組み ● 環境配慮型製品の開発を通じての環境負荷低減 ● 環境法規制の動向を先取りした事業活動、製品開発など ● 事業所のコスト低減と合わせた省エネ・省資源・物流への積極的な取り組み ● グループ内、および取引先さままでの環境活動のレベルアップ ● 化学物質の管理強化 ● 環境行動計画のグループ進捗の評価、次期環境行動計画の立案 ● 化学物質管理の登録、遵守徹底、リスク管理の強化 ● 第五期環境行動計画による新しい目標設定(CO₂削減で中期的目標)
社会 地域社会と関係維持、国際社会とのかかわり、教育、文化等への貢献、製品・サービス等ビジネスを通じての社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● 積極的な社会貢献活動参加の推進による社会意識の醸成、コミュニティー交流、ボランティア・プロボノ活動 ● 新興国ビジネスの推進 ● ボランティア活動参加の促進

業務監査

ウシオ電機では、コンプライアンス監査や安全保障輸出管理の監査をはじめとするさまざまな内部監査やグループ会社の監査を実施しており、監査の品質や監査の有効性を高めるために、監査役や関連部署とは常に連携を図っています。経営上のリスク最小化と会社が目指す方向性の観点から監査テーマ、監査項目を組織の状態に応じて選定し、組織の目標達成に向けて価値を提供できる監査になるよう留意しています。また、監査による指摘・提言事項については、対応が完了するまで定期的にフォローを行っています。今後も経営の合理化、業務の改善、資産の保全、経営上のリスク最小化および体質改善につなげていきます。

リスクマネジメント

コンプライアンス、環境、品質、財務、法務、災害、情報、および輸出管理などの業務遂行・経営の各関連リスクについて担当部署により把握、評価、特定を行っています。

災害リスクはプロジェクトにて全社的にBCP(事業継続計画)の策定を行ってきました。環境リスクは定期的に環境リスク巡回や影響評価を行って、管理をしています。IT情報の管理は管理責任者の組織を定め、機密情報、個人情報の漏洩を防いでいます。輸出管理のリスクに関しては専門部署により、規程ルールを定め専門教育の実施など管理を行っています。有価証券などの金融商品の市場リスクについては、規程を設け、管理を行っています。国際規範など、グローバルなサプライチェーンにおいて、腐敗、人権侵害、環境汚染のリスクについてもCSR調達に取り組んでいます。

上記の各種リスクに対して、取締役が委員長を務めるコンプライアンス委員会や取締役会に報告する体制を取っています。

コンプライアンス

ウシオ電機では「コンプライアンス委員会」を設置し、法令遵守・企業倫理・社会規範を尊重する企業風土醸成に取り組んでいます。2015年3月期は、アンケートの実施や社内報での周知徹底を図るほか、新たにコンプライアンスハンドブックを発行するなどし、多岐にわたるコンプライアンスのテーマについて、社員の意識向上のための啓蒙を行いました。

また、潜在するリスクも含めコンプライアンス懸案事項には、できるだけ早い時点で対処することなどを全社的に推し進めており、社内の相談窓口のほか、外部の相談・通報窓口として「ウシオヘルプライン」を設けています。

腐敗防止に向けた取り組み

ウシオ電機では、行動指針において公正・公平な取引を行うことを掲げており、従来より腐敗防止を徹底しています。

担当業務に関わる腐敗防止の教育を個別に実施するとともに、管理職に対しては世界的な腐敗防止法の執行強化の動きを踏まえた教育を実施するなど、全社において腐敗防止の周知徹底を図っています。

また、「国連グローバル・コンパクト10原則」への支持を表明しており、腐敗防止に向けての取り組みを強化していきます。

情報セキュリティ

ウシオ電機では、事業活動上で取り扱う機会が多いお客さまの個人情報、お客さまからお預かりする重要な企業情報などの情報資産を、漏洩や改ざんなどの脅威から確実に守ることが重要課題と考えています。さらには、情報は価値を生む資産、企業価値を高める源泉という認識に基づき、社員の情報セキュリティ意識の向上、リスク管理など体制整備を推進しています。これらの管理では、「ルールを決める」「ルールを守る仕組みを作る」「意識向上」の三位一体となった取り組みが必要で、情報セキュリティ管理規程に基づく運用と、海外を含むグループ内でのルール均質化を行っています。

具体的な仕組みとして、IC入りIDカードを活用した事業所内のセキュリティエリアの確保やパソコンのウイルス対策、ディスク暗号化、業務システムの権限管理、対災害・対障害能力の強化といった対策を進めており、社外送信メールの添付ファイル自動暗号化・誤送信防止、WindowsXPのサポート終了に伴うパソコン入替、パソコン資産管理ツールの入替によるセキュリティ統制、インターネットアクセス制限の強化、ファイルサーバー統合によるデータアクセスの権限強化等に取り組んできました。近年ではパソコンに加え、タブレット端末やスマートフォンの活用が増えていますので、それらのツールに対してもパソコン同様のセキュリティ確保ができる環境を整えています。

情報漏洩を防止するためには社員一人ひとりの情報セキュリティに対する意識とスキルを向上させることが重要と考えており、e-ラーニングを活用した教育や入社時や階層別の研修を全社で適宜実施することで、さまざまな脅威や機会に対する意識向上を図りPDCAサイクルを回すことにより取り組みを徹底しています。

また、2015年度から始まったISOの改善活動においても、業務負担低減、スリム化・スピード化の実現をサポートしていきます。

人権の尊重

ウシオグループでは国際労働機関（ILO）による「労働における基本原則及び権利」を尊重しています。また、2010年10月には国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト10原則」への支持を表明し、10原則を遵守するべく取り組みを推進しています。

サプライチェーンマネジメント

ウシオは、サプライチェーンにおける人権問題を重要なCSRテーマのひとつとして掲げ、すべての人権が尊重される社会の実現に向けて積極的な取り組みを進めています。

2013年11月に、紛争地域での人権問題に配慮した「紛争鉱物に対する基本方針」を掲げました。また、サプライチェーンでの人権配慮も含めたCSR調達方針の制定を2014年10月に公表しました。

CSR調達方針

[Web http://www.ushio.co.jp/csr/csr-procure.html](http://www.ushio.co.jp/csr/csr-procure.html)

ダイバーシティ

ダイバーシティについては、国が方針を提示していることから日本国内でも徐々に進展しています。ウシオでも、性別・人種にとられない平等な人材活用を推進しています。

グローバルな人材の活用

ウシオグループの所在地別売上高を見ると、海外での売上高が約8割となっています。海外でビジネスを推進していくために、現地に溶け込みコミュニケーションを行うことにより、何が求められているのかを理解し、行動できる人材が必要となってきます。そのため、留学制度の制定や海外留学生の採用をはじめグループ会社間における人材の交流を通して、グローバルな人材の育成・活用を行っています。

障がい者雇用

2015年3月期の障がい者雇用率は、法定の2.0%に対し、1.89%とわずかながら下回る結果となりました。ウシオ電機では、トイレのドアを引き戸にしたり、階段に手すりをつけたりするなど、事業所のバリアフリー化などを進めるとともに、引き続き障がい者雇用の促進を図ります。

女性活躍推進

ウシオ電機では、先進国のビジネスが成熟化している中で新しいビジネスを生み出すには、多様な感性、考え方、能力が必要と考えています。近年では営業職・技術職における女性社員比率が5年前に比較し2倍以上に増加しています。また、管理職登用においても性別にとられない人材の登用を図っており、2020年までに女性管理職を現在の3倍にすることを目標としています。

さらに、2013年1月と4月には、女性社員の声を経営に届けるため、牛尾会長と女性社員の座談会を、また社員一人ひとりのモチベーションを高めるため、2014年2月には他社とウシオ電機の女性営業職交流会を行いました。ウシオ電機社員の平均勤続年数は年々伸びていますが、女性の勤続年数は男性を上回っており、2015年3月期は17年となりました。

ワークライフバランス

両立支援制度

ウシオ電機では、ライフスタイルや性別を問わない多様な価値観、働き方に柔軟に対応できる体制づくりのため、育児休業をはじめ、法定水準を上回る支援制度を整備しています。

仕事と子育ての両立支援制度や母性保護、上司の対応方法など、制度を利用する社員および上司の心得を記載した「両立支援ハンドブック」を社員向けポータルサイトに公開し、育児をする社員の両立支援をバックアップしています。

また、仕事と子育てを両立している女性社員のインタビューを社内報に掲載したり、ノー残業デーの実施やポスター掲示、「こども参観」「ファミリーデー」を実施したりするなど、ワークライフバランス実現のための働き方の見直しを推進しながら仕事と子育ての両立できる環境の拡充を図ってきました。また、女性の育児休業取得率および復職率はほぼ100%であり、男性も毎年複数名が育児休業を取得しています。その結果、2015年3月には、4期目の「次世代育成支援対策推進法」認定マーク「くるみん」を取得しました。

育児休業制度利用者推移

	2013	2014	2015
男性(人)	5	4	3
女性(人)	32	29	25
合計(人)	37	33	28

育児休暇を取得して

3人目の子供を授かり、出産後、妻だけでは育児や家事全般をこなすことが難しいため約2か月育児休暇を取得しました。休職中は、赤ちゃんはもちろん子供たちみんなが日々成長する姿を実感できとても幸せでした。また、日ごろから妻がとても頑張ってくれ



ていたことも知ることができ、改めて感謝しました。2か月はあっという間でしたが、家族全員で過ごす貴重な時間をいただいたと感じています。

ウシオ電機(株) 播磨事業所
山田 容平

教育研修や現場に根ざした人材育成

企業理念の「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること」の実現に向け、さまざまな教育制度を設け自立・自律した人材の育成を目指しています。また各部門や職種別に必要とされるスキルの見直しを行い、体系化し、人材の育成や評価に役立てる仕組みを拠点別に行っています。職種を問わず、常に問題意識を持ち、過去にとらわれない発想で、独自性のある提案と行動ができる人材の育成を進めています。

ヤング・エグゼクティブ・グループ

2015年より新たな若手育成のプログラムであるヤング・エグゼクティブ・グループが活動を開始しました。このプログラムは中長期的に理論と実践力を兼ね備えた経営人材の育成を行うためのものです。

メンバーは若手社員からの公募を経て選定し、夢・戦略構築力・実行力・協働・グローバル対応力の5つを目標要件として、理論の習得と実際の経営課題に関する具体的な取り組みを行います。初年度の今年度は、ウシオ電機をはじめ、グループ各社を含めた総勢21名が参加し、幹部社員、外部の専門家などと意見を交わしながらさまざまな活動を行っており、明日のウシオグループを創る新しい原動力として活躍していきます。

コミュニケーション

ランチdeコミュニケーションの開催

ウシオ電機では、従来より社長と社員と一緒に昼食を楽しみながらコミュニケーションを図るランチミーティングを実施してきました。2014年度からは、より多くの社員と経営陣との対話を実現するため、事業部長などにまで取り組みの範囲を拡大し、「ランチdeコミュニケーション」を開催しています。この取り組みは、社長をはじめとする経営陣が会社や事業の方向性、それに対する思いや考えを直接伝える場であるとともに、参加する社員が経営陣の人となりを知ることができる機会です。会の中では、組織や経営に関する難しい話から、仕事に対する姿勢や働き方、英語の身に付け方といったプライベートな内容まで、普段ではなかなか聞くことができない話もあり、貴重な時間となっています。

ワールドカフェの開催

2014年度から、社員自らの発案・主導による「風通しの良い、活気あふれる職場」を目指した「ワールドカフェ」を実施しています。このワールドカフェとは、あまりお互いを知らない人達が、リラックスした雰囲気の中で、あるテーマに集中した対話を行い、人々がオープンに会話することでコミュニケーションの大切さに気づくことを目的としています。

2014年度はウシオ電機全社員の約2割がこの取り組みに参加。「普段接点のない社員との対話を楽しめた」「新たな気づきを得ることができた」などの声があがり、社内コミュニケーションの円滑化と互いを尊重し合う企業風土醸成のきっかけとなっています。



お客さま・お取引先さまとのかかわり

ウシオグループではお客さまのニーズを的確に捉え、お取引先さまと一体となって製品の開発・品質の向上を進めることで、「当たり前品質」の上を行く「魅力的品質」を備えた製品・サービス、新たな価値を提供していきます。

UPS (USHIO Production System)

ウシオ電機播磨事業所では、2012年3月期から独自の新しい生産方式の確立を目指し、UPSと呼ばれる取り組みを開始しました。事業環境の激しい変化の中で、どのような環境にあっても高品質な製品を効率よく提供するためにはこれまでのやり方を踏襲し決められた枠の中で改善を積み重ねるのではなく、従来から培ってきた改善活動(UPS、TPM、TQC)を統合し、多角的視点から改善を進めています。

UPSは「社員一人ひとりの自発性や熱意をもって、創意工夫により仕事の欠陥をなくしていく、ZD(ゼロ・ディフェクト)活動」を基盤とし、「製造技術グループ」、「品質システム改善グループ」、「教育・啓蒙グループ」の3本の柱から構成されていた従来の活動を事業所内で再編を行い、2014年4月からは改善の具体的な活動実施として「事業所内全員参加」「見える化」を徹底した事業所内の小集団活動という展開を新たに始めました。91集団によりスタートされ、具体的な改善活動の推進とともに自主的な管理を促す人材育成、現場の意識改革にも寄与した活動を行っています。

2015年度も小集団活動をさらに活性化させており、約100集団にて活動のリーダーを女性や若手社員が積極的に担い、継続しています。今年度は特に、困りごとの深堀りから発展させる改善活動に注力することで、実際の業務効率化の成果に結び付けています。

2015年度からは人材育成にも注力しており、「物づくりは人づくり」と考えた指導者の育成、さまざまな課題テーマの解決、基礎の徹底につながる教育をPDCAにより展開しています。

継続的、かつ地道な活動の蓄積により、見える形でのモノづくりの基盤確立、ノウハウを蓄積しながらも効率化、職場の活性化につながる活動を継続させています。

カスタマーサービスセンターの取り組み

カスタマーサービスセンターでは、お客さまでの装置の安定稼働と顧客満足度を第一に考え、タイムリーな安心、安全の提供とともに、お客さまから常に頼りにされる存在であるよう、さまざまな取り組みを続けています。

近年では、当社の装置製品の最終ユーザーが世界中に広がっている背景もあり、アメリカ、中国、台湾、韓国拠点との緊密な連携を行い、現地でのサービス体制強化を進めつつ、充実した提案型サービスを提供しています。これからもさらなる顧客満足度向上にチャレンジしていきます。

品質保証部門の取り組み

事業所毎に設置されている品質保証部門同士の連携により、各事業所の品質維持ノウハウの「良い所取り」が進んでおり、医療機器向けの高い品質実現と合わせてさらなる魅力的品質と効率化の両立が図られています。現在もっとも注力している事項として海外生産関連会社との連携を従来以上に推進させており、グループワイドの安定的な品質保証により、より高いお客さまでの満足度に貢献していきます。

また、ウシオ電機において懸案事項となっているISOマネジメントシステムの効率化、スピード化に向けての取り組みを社内体制を敷き、2015年度から新たに活動をスタートさせました。ISOの要求事項をクリアしつつ、お客さまの要望にスピーディーに対応できる仕組みを維持させ、ルールのための動きとならない現場に根ざした抜本的改革を目指し、より高い顧客満足度につなげていきます。

グリーン調達、 国際環境法規制対応の推進

多様化する海外の法規制に対し、安定的で円滑な製品供給を実現するため、タイムリーな情報収集と対応を重視したサプライチェーン構築に取り組んでいます。調達方針、グリーン調達基準、RoHS指令、REACH規制などに対して説明会を行うなどし、納期・品質に関わるトラブル回避などについてお取引先さまとの対話を重視した取り組みを継続的に実施することで、トータルな顧客満足度向上を目指しています。

また、海外グループの生産拠点EMSによって、環境保全に向けたお客さまからの要求にグループワイドで対応できる管理体制を強化しています。現在、含有化学物質規制の対象物質の種類および適用される製品カテゴリに的確に対応するため、部品点数の多い当社装置製品においてもAISフォーマット活用によるシステムの仕組み作りで管理体制の効率化を進めています。

CSR調達の推進

2013年3月期より「グリーン調達委員会」を「CSR調達委員会」とあらため、CSR行動計画の一環としてグリーン調達およびCSR調達を実施しています。2014年3月期は、お客さまから当社へのCSR取り組みへのご要望の分析を実施しました。2015年3月期は、CSR調達をさらに確実にすべく、CSR調達方針を策定しました。

2014年12月、横浜事業所、本社、播磨事業所にてお取引先さまへのグリーン調達基準の改訂とCSR調達の説明会を実施しました。ウシオグリーン調達基準の改訂では、法規制の改訂に伴い、あらためて基準を見直したこと、お取引先さまに確認いただく化学物質の追加、について説明を行いました。またCSR調達では、ウシオCSR調達方針、CSR取り組みアンケートの実施について説明を行いました。



播磨事業所での様子

バイオメディカル、 QOL改善に関わる製品展開

2014年3月期より、バイオメディカル事業部が独立部門となりました。エキシマライト光線療法機器であるセラビームUV308からスタートした医療機器向け展開から各種メディカル系の認可を取得した後に、さまざまな事業インフラを整えてきました。

血液分析装置であるポイントリーダーでは、以前からの血清フェリチン定量測定に加えて、動物血液診断などにも活用できる用途を開拓し、継続的に可能性の幅を広げています。

現在では、人用・動物用の医療機器および体外診断用医薬品に関わる製造、販売などのインフラ整備を進め、QOL改善に貢献する多様な光の価値提供のための素地を整え続けています。

紛争鉱物調査

米国証券取引委員会(SEC)による金融規制改革法の紛争鉱物条項に基づき、2012年8月、米国の証券取引所に上場している製造業者等に、コンゴ民主共和国および近接諸国で産出された紛争鉱物(タンタル、スズ、金、タングステン)の製品への使用に関する開示と報告を義務付ける最終規則が採択され、2013年1月から法が施行されました。ウシオ電機は、ランプの電極部材として多くのタングステンを使用しており、その他の部材も含めてお取引先さまへ紛争鉱物使用状況の調査を強化するとともに、お客さまへはEICC/GeSIテンプレートをを使用した調査結果をご報告しています。

また、2013年11月に紛争鉱物に対する基本方針を策定、グループ会社のウシオライティングも同期を図るなど、グループ内での連携を推し進めています。

BCPへの取り組みについて

私たちは、2011年の東日本大震災によって、たった一つの部品の供給不能がもたらす、産業全体への影響についてたいへん大きな教訓を得ました。ウシオ電機の各種産業用光源は、非常に高い市場シェアを有するものが多く、お客さまに対する製品の安定供給に大きな責任があるため、BCPの積極的な推進を行っています。

2012年4月より全社の組織の「BCP委員会」を立ち上げ、災害発生時の減災および復旧の迅速化や他拠点との連携の仕組みなどの構築の取り組みを始めました。主要事業所(光源事業)を中心とした事業継続計画書の策定を経て、2014年4月には全社統括版の「ウシオ電機BCP(事業継続計画書)」を策定しました。策定されたBCPでは、労務、資金調達、広報等の各役割に応じた組織体制が規定されており、定期訓練により、体制や対応の見直しを継続しています。さらなる他リスク(自然災害および人為的インシデント等)への対応、グループへの展開をこれからの課題としています。情報セキュリティの一例では業務システムの対災害・対障害能力、ネットワークインフラ、情報資産の管理を強化し、トータルでの安定性確保に取り組んでいます。

環境への取り組み

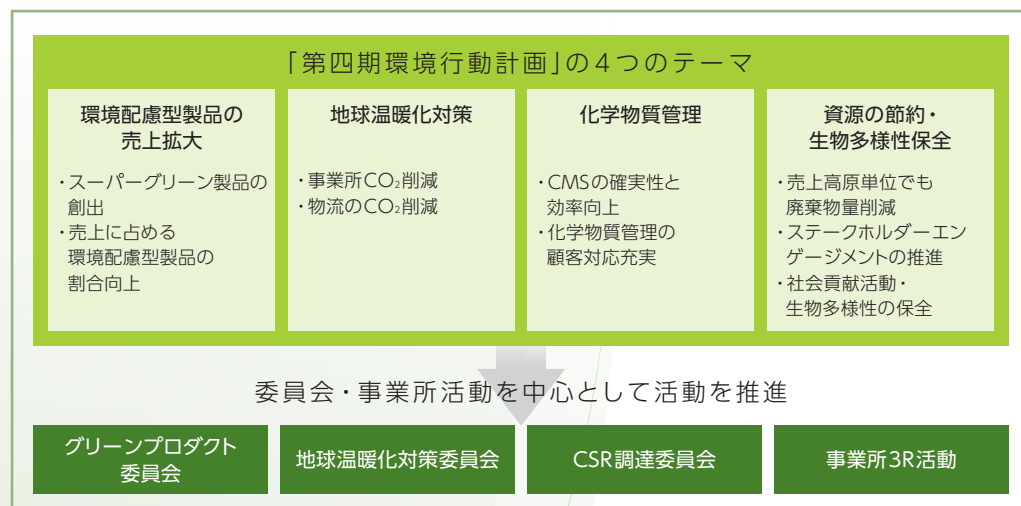
ウシオでは、サステナブルな地球環境の実現に向けて、2020年にあるべき姿を描き本業を通じた取り組みの強化を行っています。

2020年環境ビジョン

ウシオでは、2020年に「低炭素型社会」「循環型社会」「生物多様性社会」の3つを実現するために、事業を通じて社会に貢献できる企業になりたいとの思いで「2020年環境ビジョン」を策定しており、2013年4月からは、第四期環境行動計画が進行中です。

第四期環境行動計画

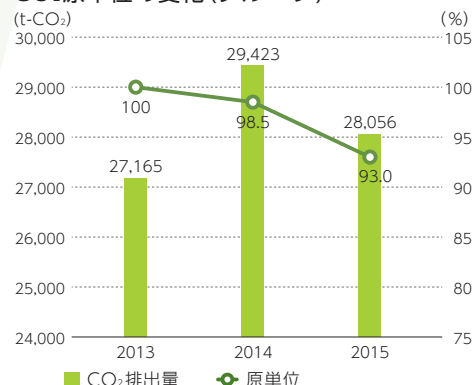
第四期環境行動計画の目標設定にあたっては、東日本大震災後の電力供給実態を踏まえ、電力不足を前提とした生産効率性を重視し、以下の4つの重要テーマを策定しました。



計画の2年目となる2015年3月期では、2013年3月期との比較で、主要な生産サイトでの努力でCO₂排出量(売上高原単位の比)7%の削減、スーパーグリーン製品の継続的創出、廃棄物量(売上高原単位の比)7%の削減などが成果となっています。活動と進捗の詳細については、ウェブサイトにおいて報告しています。

2016年以降は、これまでの4つのテーマを元にさらに深掘りし、地域毎に各社の実態を把握したうえで、新たな目標設定をした第五期環境行動計画をスタートさせます。

CO₂原単位の変化(グループ)



SCOPE3への取り組み

ウシオは、事業所の省エネ活動でCO₂排出量の削減を行っています。近年、それだけでなく製品の使用などライフサイクル全体で生じる間接的なCO₂量の把握が求められるようになりました。これは、企業がCO₂排出に影響をおよぼせるのは、事業所でのエネルギー使用だけでなく、部品の調達から物流、製品の使用からその廃棄まで広範囲だからです。従来の管理項目に加え、製品・部材の使用、輸送、人の移動などに関わるGHG排出量管理をSCOPE3としています。

SCOPE1、2、3の比較 (2015年3月期 主なグループ会社)

カテゴリ	SCOPE1 (直接排出)	SCOPE2 (購入電力)	SCOPE3								
			購入した製品・サービス	資本財	SCOPE1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	輸送、配送(上流)	事業から出る廃棄物	出張	雇用者の通勤	販売した製品の使用	販売した製品の廃棄
t-CO ₂	2,497	25,742	368,156	14,519	6,502	427	492	720	2,153	601,639	9
比率	0.24%	2.52%	35.99%	1.42%	0.64%	0.04%	0.05%	0.07%	0.21%	58.82%	0.00%

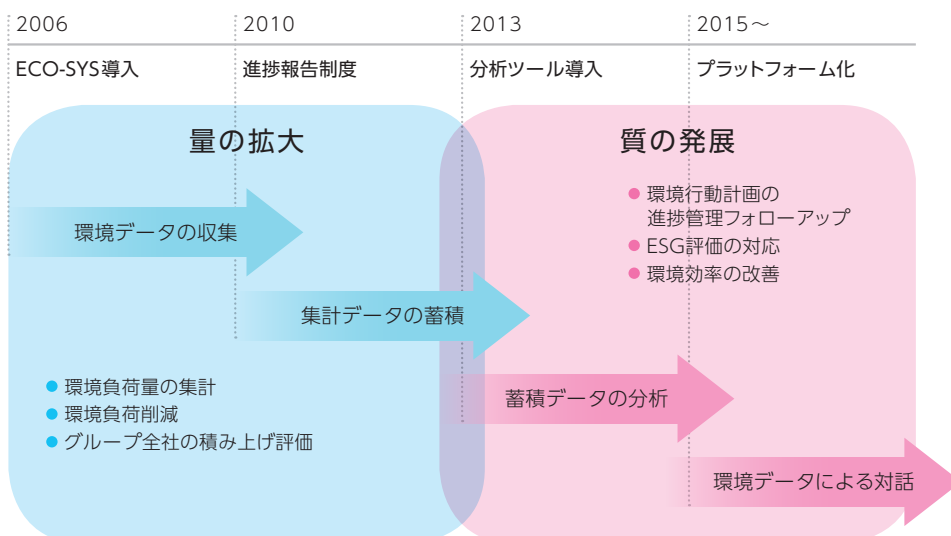
これまで第四期環境行動計画で、物流のCO₂削減に取り組んできました。SCOPE3のCO₂を把握することの重要性を認識し、2012年度より調査分析を開始しました。2014年度はウシオグループを含めたSCOPE3のCO₂排出量を把握することができました(上表)。新たな第五期環境行動計画ではその精度向上を狙い、間接的なCO₂排出量に対しても施策を検討し削減に取り組んでいきます。

現在、2拠点で太陽光発電が稼働しています。今後も利用サイトを増やすなど、「再生エネルギーの導入」にも取り組んでいきます。

ウシオの環境情報収集システム「ECO-SYS」

当社に対して企業評価機関から、またお客さまのサプライチェーンのひとつとして、環境負荷量の調査などが多数あります。またウシオグループ全体の情報開示、環境行動計画に従った環境パフォーマンス・環境経営指標の目標進捗管理を行っています。これらに対応するため、環境情報収集システム「ECO-SYS」を2006年より導入運用しています。これによりウシオグループの環境情報の一元管理が可能となったばかりでなく、省エネや廃棄物削減などのグループ各社・各拠点における環境目標の進捗管理を支えるツールとして活躍しています。報告結果より生産拠点の水使用量の増減の評価や生産事業所のCO₂排出量の分析から省エネ施策を展開するなどの実績を上げてきました。

ECO-SYS活用の発展



各拠点のCO₂排出量、水使用量、廃棄物量のデータ集積とモニタリングを継続し、各拠点の課題の共有とベストプラクティスの抽出に活用することで、環境業務効率の改善を図るウシオの環境経営の基盤となっています。

CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC. (CDSU)

冷暖房空調設備管理のためのワイヤレスサーモスタット導入

Christie USAは、本社ビルならびに倉庫ビル全体の温度・空調を適切に監視しエネルギー消費を削減することができる冷暖房空調設備の新システムを導入しました。これは24時間冷暖房空調設備のエネルギー追跡・監視・報告が可能なワイヤレスサーモスタットで、現場から離れた場所における問題を直ちに解決し、エネルギー効率を上げることができるものです。

従業員駐車場などでLED照明設置

また、Christie USAは、従業員駐車場や社屋の壁の照明をLEDに取り替えました。これによって社屋の景観が向上し、より明るく安全に駐車場を利用できるようになりました。本社第一ビルの駐車場では、LED照明へ取り替え後、消費電力が64%もの電力削減に成功し、第二ビルでも、削減割合は87%になりました。

同時に、法務部門の拡張工事に際してもLED照明を採用し、就業スペースのLED照明に日光によるセンサーを取り入れることで、天気の良い時間帯には少ない消費電力で通常と同じ明るさを得ることができるようになっています。

Christie USAは、これらの取り組みによって第四期環境行動計画のエネルギー消費量削減目標の達成を目指しています。

社会とのかかわり

国際社会の一員として、それぞれの地域社会の発展に貢献するような取り組みを行っていきます。ウシオグループの国内外での拡大で事例も多く増えており、持続可能性の大きな要素である教育、文化、被災地支援や地域交流と、掲載内容以外にもさまざまな活動に取り組んでいます。

公益財団法人 ウシオ財団

「ウシオ財団」は、1994年にウシオ電機創立30周年記念事業として設立されました。グローバル化が進む中で、当財団では海外留学生も含み次代の世界を担う人材の育成に寄与し、諸外国との交流と相互理解を増進することで社会に貢献しています。

2015年3月期は、大学院生(留学生含む)46名、高等専門学校専攻科生11名に奨学金を支給しました。これまでに採用した奨学生の数は488名を数え、今年も引き続き被災地の学校を優先的に募集しました。



ウシオ電機

つくばScience Edge 2015でワークショップ開催

2015年3月24日、科学を学ぶ中学・高校生を対象に毎年開催されるつくばScience Edgeに参加し、当社の新技術開発部による「光接合」のワークショップを行いました。参加者全員に、実際に当社のエキシマランプを使って、紫外線が異質な物質同士を原子レベルで結合させる実験を行ってもらい、接合の瞬間には大きな歓声が上がりました。実施したアンケートには、94%の生徒たちが「とてもよかった」「よかった」としており、これまで知らなかった光の可能性について学ぶ貴重な機会となったようです。



学生の工場見学受け入れ

2月5日、静岡県立御殿場高等学校情報システム科の1年生40名が御殿場事業所を見学しました。大型装置を製造する現場や放電ランプの一種である超高压水銀ランプの製造を中心に見学しました。

「夏休みこども参観日」開催

8月8日、播磨事業所にて、「夏休みこども参観日」が開催されました。社員の子供たちの職場見学会です。工場やオフィスの見学以外にも社員食堂で親子一緒に昼食をとり、CD盤を使った簡易分光器(プリズム)工作ではいろいろな光源のスペクトルの観察も実施し、社員の子供たちに親の職場を知ってもらう機会となりました。



日本電子技術(株)(NDG)

竹林整備ボランティア

日本電子技術では、毎年社員を募って森林整備のボランティア活動に参加しています。2007年から始め通算11回目となる今回は、神奈川県中井中央公園敷地内の竹林整備活動を行いました。年々参加者も増えており、神奈川県4割にもおよぶ森林地域の整備にこれからも貢献していきます。



USHIO HONG KONG LTD. (UHK)

香港・ランタオ島で植林活動に参加

UHKメンバーが香港国際空港のあるランタオ島で、植林のボランティア活動を行いました。香港は、総面積の約40%、440Km²が国立自然公園として指定され公園内の



自然は政府によって厳しく管理されています。しかし、山火事がたびたび起こるため、民間の団体が、政府から特別に許可を受けて植林活動を行っています。今回は、50本近くの苗木を植えることができました。

CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS, INC. (CDS)

Christie コミュニティーガーデン

Christie Canada施設部によって、2013年4月から始動したコミュニティーガーデンは、スタッフの相互協力のもと「健康・ウェルネス・グリーンイニシアチブ」をモットーに、未使用スペースに種々雑々の野菜および花の種を植えています。



参加者のための専用内部ウィキ・ウェブサイトを立ち上げ、野菜や花の成長の写真や収穫についてのガイド、さらに収穫後の野菜を使った料理レシピを紹介するなどプログラムが拡大し続けています。

恒例のユナイテッド・ウェイ キャンペーン開催

Christie Canadaは、今年もユナイテッド・ウェイを通じて、優れたコミュニティー支援を提供しています。Christieのイニシアチブで以下の事柄に対応すべく、2014年のテーマを「ヘルシーキッズ：健康な子供達」としました。

- 学校内でのいじめ
- 教育(読み書き能力)低下への取り組み
- 貧困の中で暮らしている子供達

また、従業員の家族または子供たちが手書きポスターを作製し展示する「チルドレン アート ギャラリー」、寄付金を集めるための抽選や、ユナイテッド・ウェイからのこれからのイニシアチブについてのビデオ上映を行いました。



チャリティーバーベキューを開催

2014年8月15日、CDS-UKのオフィスで、ロンドンマラソン(チャリティーマラソン)へのチャレンジのための資金調達を目的として、職場でのチャリティーバーベキューを開催しました。チャリティー団体からのサポートをはじめ多くの社員の協力で、目標額の4分の1を集めることができました。CDS-UKでは、今後もこうした活動を続けていきたいと考えています。

USHIO ASIA PACIFIC (THAILAND) LTD.

チャリティーマラソンで完全走破

UAPTは、2015年2月8日、バンコクのルンピニー公園で行われたチャリティーミニマラソンに参加しました。このイベントはタイの最大手映画館チェーンMajor Cineplexが主催したもので、ホームページなどで映画館およびその付帯設備関連の関係者に参加を呼びかけ、その参加費用のほぼ全額がNPO法人を通じて、車いすが必要な子供たちに寄付されます。



USHIO PHILIPPINES, INC. (UPI)

フィリピンでは、ボランティア月間である7月に多くの企業がさまざまな活動を行います。UPIは毎年、工業団地のBest of SCR (Social Company Responsibility) に表彰されており、今年は献血活動、刑務所慰問、炊き出し活動の3つのボランティア活動を行いました。



USHIO KOREA, INC. (UKI)

福祉施設を訪問

UKIでは、今年もソウル・YoungDeungPoの社会福祉館を訪問しました。今回は、一人暮らしで食事を抜きがちなる高齢者にお弁当をつくって届けるというもので、貧困や孤独に直面する高齢者が身近にいること、誰にでもできることがあることを考えるよい機会となりました。今後も、このような活動を継続的に行っていきたいと考えています。



研究開発／知的財産

研究開発

当社グループは、産業用光源の開発・製造を中核にして光学系技術をはじめ、エレクトロニクスやメカトロニクスなど、光を利用・応用していくうえで不可欠なさまざまな周辺技術の開発を推し進め、光のユニット化、光の装置・システム化へと事業を展開しています。新市場・新技術の動向を常に把握し、戦略的な研究開発活動を行うとともに、各研究開発部門が相互に連携・連動しながら数々の新しい光源および光の関連装置を生み出す体制となっています。

2015年3月期の実績

植物育成用LEDバーユニット

近年、“地球温暖化の影響による天候不順”や“食の安全に対する意識の高まり”などから、植物の育成環境を人工的にコントロールすることで、野菜などを計画的に、無農薬で栽培できる植物工場が注目されています。ウシオライティングは、植物工場に利用できるLED光源の研究を進め、PPFD(光合成有効光量子束密度)1000 μ mol/m²/s*以上の高出力を実現。世界で初めて稲などの穀類、果菜類、イモ類、豆類の栽培が可能。なLEDユニットを開発しました。



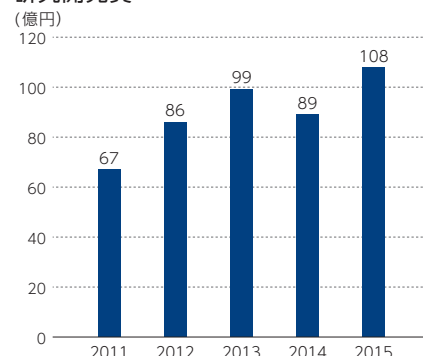
*照射距離 200mm

外乱光の影響を補正し正確に測定するハロゲンヒータ用温度計測システム

世界で初めて、ハロゲンヒータの外乱光の影響を補正することで、被加熱物の温度を非接触で正確に測定する温度計測システムを開発しました。温度管理の品質向上を実現するだけでなく、従来の放射温度計の不正確な温度計測がネックとなってハロゲンヒータが適用できなかったプロセスにおいても、ハロゲンヒータの採用を可能にしました。



研究開発費



レンタルステージ向け最高輝度、最軽量の4K30プロジェクタ

CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.は、最高輝度、最多ピクセルの3DLP画質で、このクラスとして最小、最軽量、かつ堅牢設計の筐体を持つ、4K30プロジェクタBoxerを開発しました。コンサート、遊園地、プロジェクションマッピングなどのレンタルステージ用プロジェクタとして、ランプの使用時間とシリアル番号をNFC(近距離通信)経由で確認でき、ショーを中断することなく現場での迅速な交換作業が可能です。



知的財産

当社グループは、知的財産に関する方針を次のように定めています。

1. 業績貢献

戦略的な提言・提案を主体的に行い、会社の業績に貢献する。

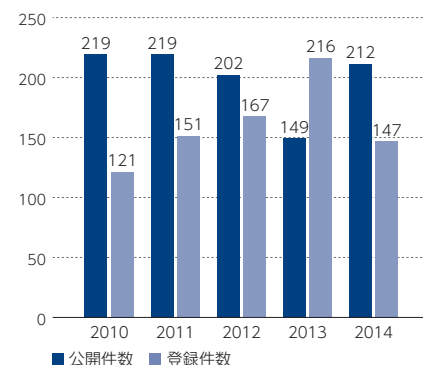
2. 実効性ある特許権の取得

活用を意識した権利化活動を行い、ウシオグループ全体として、M&A、新規事業、既存事業の各活動に貢献できる知財権の取得と維持を図る。

3. 知財コンプライアンスの徹底

他社権利の調査分析を行い、知的財産リスクの見える化を図り、知的財産コンプライアンスを徹底する。

特許公開件数／登録件数



第三者意見



公益財団法人パブリックリソース財団
専務理事・事務局長

岸本 幸子

東京大学教養学部卒。民間シンクタンク勤務、米国留学を経て、2000年にNPO法人パブリックリソースセンター（現法人の前身）創設、2013年より現職。寄付・NPO融資・社会的投資等の社会的なお金の流れの開発、企業の社会的責任等をテーマに活動中。内閣府共助社会づくり懇談会委員、日本ファンドレイジング協会、公益法人協会など複数の非営利団体の理事も務めている。

今年初めて当社の第三者意見を記述することとなりました。NPO/NGOの立場から市民の目線で、サステナビリティレポート2015の記述内容について、意見を述べさせていただきます。

第一に、トップメッセージにおいて、2015年5月に発表された中期経営計画の実現に向けて、CSRの推進は経営基盤として重要であるという認識が示されており、トップの意気込みがうかがえます。特に当社が今後さらにグローバル企業として活動を展開していく上で、経営の透明性の確保、人権やダイバーシティへの配慮、サプライチェーンマネジメントが重要な課題となるという認識には、同感いたします。

第二に、一方で、特集記事において中期経営計画の中核となる固体光源事業やバイオメディカル事業について取り上げていますが、当社の先駆的な事業の社会的価値や高い将来性について記述する場合には、同時にこれらの事業展開に伴う社会的コストについても記述したほうがよいと思われます。例えば当社はLED・LDの製品ラインアップを広げるためにM&Aを推進していますが、広がる事業拠点における雇用慣行やグローバルなサプライチェーンマネジメントの取り組みの強化についても言及が望まれます。これから発展する成長部門については、お客様に提供する新しい価

値だけでなく、その他のステークホルダーに与えるかもしれない社会的影響についても、当社がその影響をどのように把握し、どこまで当社の取り組み対象としていくのか、方針を述べることで経営とCSRの統合のために必要であると考えます。

第三に「ウシオのCSR」において、CSR中期計画の概要や2016年3月期からのCSR行動計画の取り組み項目が列挙されています。なぜこれらの項目を重要と考えたのか、経営計画の方向性や重点事業や新規事業の進展とどのようにリンクしているのか、トップメッセージが打ち出した方向性を踏まえ、具体的な説明が欲しいところです。また、本サステナビリティレポートでは、当社のCSRに関する個々の取り組みの数値目標や結果に関する報告が、障がい者雇用率やワークライフバランスなど一部を除き、捨象されています。このため2015年3月期における当社のCSRの取り組みが順調に進んでいるのか否か、ステークホルダーの立場からは判断しづらい状況です。今後は、当社にとってマテリアル*なCSR課題について、なぜマテリアルなのかを経営戦略との連動において明確に記述し、計画、目標、当該報告年度の進捗状況を具体的に記述いただくことを期待しております。

*マテリアル：ステークホルダーと企業とにとっての重要性と優先度がマッチする取り組み

第三者意見を受けて

公益財団法人パブリックリソース財団専務理事・事務局長岸本幸子先生から、本年より初めて「サステナビリティレポート2015」に対して、ご意見をいただきました。心より感謝申し上げます。当社のCSRは2010年から経営戦略とCSR課題の融合を目的に、活動を強化してまいりました。このたびは、「CSR項目の重要性評価」と「具体的な目標設定」に対しご指摘を頂きま

ウシオ電機株式会社 取締役 CSR担当 小林 敦之

した。ご指摘の内容も踏まえ、当社事業の特徴を生かした社会的貢献につながる目標を明確化し、より具体性のある情報発信を充実させてまいります。また、グローバルなサプライチェーンマネジメントにおきましては、更に取り組みを強化するとともに、Win-Winとなる関係づくりに努めてまいります。

発行：ウシオ電機株式会社

リスクマネジメント室CSR担当

〒225-0004 神奈川県横浜市青葉区元石川町6409

Tel: 045-872-2812 Fax: 045-872-2814

www.ushio.co.jp



COMMUNICATION ON
PROGRESS

This is our **Communication on Progress**
in implementing the principles of the
United Nations Global Compact and
supporting broader UN goals.

We welcome feedback on its contents.